通信･インターネット

１．評価対象企業（10 社）

【通 信】（6 社）

インターネットイニシアティブ、スカパーJSAT、NTT、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

【インターネット】（4 社）

カカクコム、メルカリ、LINE ヤフー、楽天グループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	27
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	6
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	6
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 31 名（所属先 22 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、評価対象企業の変動（3 社減）のほか、一部の項目内容および配点を見直しており、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.8 点（昨年度 71.2 点）、総合評価点の標準偏差は 6.1 点（昨年度 9.1 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、通信（6 社）は 78.2 点（昨年度 78.3 点）、インターネット（4 社）は 70.9 点（昨年度 66.8 点）となった。評価対象企業 10 社のうち 5 社の総合評価点が上がった。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度 75%）、**説明会等**が 76%（昨年度 72%）、**フェア･ディスクロージャー**が 85%（昨年度 80%）、**ESG 関連**が 75%（昨年度 69%）、**自主的情報開示**が 66%（昨年度 56%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて平均得点率が改善した。

④　評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上の高水準となったものは、次の 3 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 2 項目(a)(b)および**フェア･ディスクロージャー**の中の 1 項目(c)）であった。

(a)「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか」（平均得点率 80%〔昨年度 77%〕）（得

点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0% 2社・100% 8社）
(b)「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか」（平均得点率82%〔昨年度同率〕）（得点率：70%台5社・80%台4社・90%台1社）
(c)「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率97%〔昨年度98%〕）（得点率：90%台7社・100% 3社）

⑤ 一方、次の項目（**ESG関連**の中の1項目(a)および**自主的情報開示**の項目(b)）は、昨年度に比べ平均得点率が改善したものの、低水準にとどまった。評価対象企業間の得点率の差は拡がっており、下位評価企業においては、改善を期待したい。

(a)「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか」（平均得点率72%〔昨年度65%〕）（得点率：50%台3社・60%台1社・70%台3社・80%台3社）
(b)「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率66%〔昨年度56%〕）（得点率：40%台2社・50%台2社・60%台2社・70%台3社・80%台1社）

⑥ **ESG関連**の3項目（上記⑤(a)を除く）は、次のとおりとなった。昨年度に比べ、いずれも平均得点率が改善した。

(a)「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を統合報告書などで十分に説明していますか」（平均得点率78%〔昨年度75%〕）（得点率：60%台1社・70%台5社・80%台4社）
(b)「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率74%〔昨年度66%〕）（得点率：60%台3社・70%台3社・80%台4社）
(c)「E（環境）・S（社会（人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）を含む））に関する情報を統合報告書などで具体的に開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」（平均得点率76%〔昨年度69%〕）（得点率：60%台3社・70%台4社・80%台3社）

(2) 上位３企業の評価概要

第１位　ソフトバンク（ディスクロージャー優良企業〔3回連続3回目〕、
総合評価点82.6点〔昨年度比＋0.2点〕）

① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉83%）、**フェア・ディスクロージャー**（88%）が第1位、**ESG関連**が第2位（83%）、**説明会等**（82%）、**自主的情報開示**（75%）が第3位となった。
② **経営陣のIR姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となり、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」も最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップとのディスカッション機会を評価する声や、決算説明会等の説明において、経営方針や戦略について分かりやすく詳細な説明が行われており、有益な対話の機会となっているとの声が寄せられた。また、「IR部門の機能」は同得点第2位、「IRの基本スタンス」は第3位となった。これらに関連して、IR部門には十分な質・量の情報が集積されており、IR担当者の説明力も高く、有益なディスカッションができるとの評価が寄せられた。
③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が最も高い評価となり、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第2位に、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」は第3位となった。これらに関連して、決算説明会では社長による率直で踏み込んだ質疑応答が分かりやすいとの声や、投資家向け説明会資料も詳細で理解しやすく、説明および質疑応答の内容を評価する声が寄せられた。なお、AIやデータセンター関連について開示の充実を望む声もあっ

た。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目計で最も高い評価となった。これらに関連して、決算説明会をインターネットでリアルタイム中継し、その後、動画や質疑応答をホームページにアップロードしていることを評価する声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」が共に同得点第 1 位となったほか、「資本政策、株主還元策の開示」は第 2 位に、「目標とする経営指標等の開示」は第 3 位となった。これらに関連して、統合報告書（統合レポート）の質が高く、事業戦略について詳細かつ分かりやすく説明されていることや、新中期経営計画での資本政策を評価する声が寄せられた。なお、給与の決定方針や賃上げに関する具体的な開示の充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、SoftBank World やデジタルツイン・キャンパス ラボ（藤沢キャンパス）見学などを挙げる声（P12）があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　ＫＤＤＩ　（総合評価点 80.7 点〔昨年度比±0.0 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

①　同社は、**ESG 関連**が第 1 位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（83%）、**自主的情報開示**が第 4 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 6 位（83%）、**説明会等**が第 7 位（76%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となったほか、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が同得点第 2 位となった。これらに関連して、説明会における経営トップからの経営方針・新中期経営戦略に関する分かりやすく詳細な説明を評価する声が寄せられた。なお、経営トップとのディスカッション機会の拡大を望む声もあった。また、「IR 部門の機能」は 90%以上の得点率となり、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門には質・量ともに十分な情報が集積されており、IR 担当者が社内の状況を熟知していることに加え、マニュアル通りの回答にとどまらず、発展的な議論にもきめ細やかに対応していることを評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が第 3 位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第 4 位となった。これらに関連して、決算説明会では、会社のスタンスをしっかり示していることを評価する声や、難しい質問に対しても丁寧に対応していることを評価する声が寄せられた。なお、質疑応答の回答については、より分かりやすい説明を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が同得点第 4 位となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」は同得点第 6 位となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となったほか、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」も同得点第 1 位となった。また、「目標とする経営指標等の開示」は第 2 位となった。これらに関連して、サステナビリティ統合レポートの質が高く、事業戦略やその進捗状況が分かりやすく説明されていることを評価する声が寄せられた。なお、給与の決定方針や賃上げに関する具体的な記載の充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、高輪新本社見学会などを挙げる声があった。

第３位　スカパーＪＳＡＴ　（総合評価点 80.1 点、新規評価）

① 同社は、**自主的情報開示**が第１位（85%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第２位（87%）、**説明会等**（79%）、**ESG 関連**（79%）が第４位、**経営陣の IR 姿勢等**が第５位（80%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となったほか、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が同得点第２位となった。これらに関連して、経営陣や事業部門トップが IR デイ等に積極的に参加し、各事業のトップを含めて投資家とのディスカッション機会が豊富であることに加え、投資家からの質問に対して多様な観点から回答していることを評価する声があった。また、開示が難しい事業についても可能な範囲で積極的な情報開示に努めることを評価する声が寄せられた。また、「IR の基本スタンス」は同得点第４位、「IR 部門の機能」は同得点第 7 位となった。これらに関連して、IR 部門には業界環境を含めた幅広い情報が集約されており、IR 担当者が社内状況を熟知したうえで、分かりやすく丁寧かつ誠実に対応していることを評価する声が寄せられた。投資家からの意見を反映しながら資料や説明内容の改善に努めていることを評価する声があった。なお、売上やコスト面に関する情報については、業績予想を行う上でさらなる開示の充実を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が第２位となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第２位に、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」および「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」は共に同得点第6位となった。これらに関連して、決算説明会資料や各種説明資料において、定量・定性の両面で十分な情報開示が行われていることに加え、安全保障領域に関する開示の充実や、大型衛星打上後の減価償却負担増加を踏まえた中長期的な成長性を理解しやすい情報提供姿勢を評価する声が寄せられた。なお、宇宙事業の内訳に関する四半期開示や、宇宙関連事業の案件について時間軸を整理したより分かりやすい説明の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」が同得点第１位となった。「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」は同得点第 4 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等の開示」が最も高い評価となった。また、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は第４位に、「資本政策、株主還元策の開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」は第 5 位となった。これらに関連して、資本効率改善に向けた近年の取り組み姿勢や、キャピタルアロケーションの最適化を意識した経営を評価する声が寄せられた。一方、資本効率改善に向けた取り組みのさらなる加速を望む声もあった。

⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。有益なイベントとして、横浜衛星管制センター施設見学会を挙げる声が多く寄せられた。

（注）第２位の企業より、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」として選定・称賛することについて、辞退する旨の申し出があった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（通信・インターネット）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 39点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 27点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 6点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 32点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 6点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9434　ソフトバンク	82.6	24.2	1	22.1	3	5.3	1	26.5	2	4.5	3	1
2	9433　KDDI	80.7	24.0	2	20.4	7	5.0	6	26.9	1	4.4	4	2
3	9412　スカパーJSAT	80.1	23.2	5	21.4	4	5.2	2	25.2	4	5.1	1	－
4	9432　NTT	78.8	23.1	6	20.6	6	4.9	8	25.5	3	4.7	2	4
5	2371　カカクコム	78.3	23.8	3	22.4	1	5.2	2	23.7	5	3.2	7	5
6	3774　インターネットイニシアティブ	77.3	23.6	4	22.4	1	5.2	2	22.0	8	4.1	5	3
7	4689　LINEヤフー	73.8	21.9	7	20.7	5	5.2	2	22.8	6	3.2	7	7
8	9984　ソフトバンクグループ	68.7	19.7	8	19.2	9	5.0	6	21.1	9	3.7	6	8
9	4385　メルカリ	66.8	18.2	10	19.3	8	4.8	10	22.1	7	2.4	10	11
10	4755　楽天グループ	65.8	19.7	8	18.2	10	4.9	8	20.2	10	2.8	9	10
	評価対象企業評価平均点	75.76	22.26		20.65		5.07		23.85		3.93		

2026年度の具体的評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 ［4回以上：2点　3回：1点　2回以下：0点］	**2**	●
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**7**	
(3)IRの基本スタンス		
・会社にとって都合の悪い情報、不祥事、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	**10**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 （27点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示		
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	**10**	
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	**3**	
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	**4**	
3．フェア・ディスクロージャー（6点）	**配点**	**委員のみ**
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**2**	
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M＆A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	**4**	
4．ESGに関連する情報の開示（32点）	**配点**	**委員のみ**
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示		
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を統合報告書などで十分に説明していますか。	**6**	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	**11**	
(3)目標とする経営指標等の開示		
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	**4**	
(4)E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み		
・E（環境）・S（社会(人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）を含む)）に関する情報を統合報告書などで具体的に開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	**11**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	**配点**	**委員のみ**
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	**6**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

通信･インターネット専門部会委員

部　会　長	増野　大作	野村證券
部会長代理	大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	奥村　裕介	岡三証券
	醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	得永　一樹	大和証券
	滑川　　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（31 名）

板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	須藤　翼	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩渕　啓介	岡三証券	得永　一樹	大和証券
上田　和美	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	仲西　恭子	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
大浦　裕太	第一生命保険	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原田　大輔	QUICK
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原畑　亮平	野村證券
奥村　裕介	岡三証券	久田　有貴	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
嚴　智用	野村證券	宝水　裕圭里	SBI 証券
鎌田　重俊	立花証券	堀　雄介	みずほ証券
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	前田　栄二	SMBC 日興証券
菊池　悟	SMBC 日興証券	増野　大作	野村證券
岸本　晃知	みずほ証券	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
熊澤　伸悟	大和証券	山本　将	三菱 UFJ 信託銀行
桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	米島　慶一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡辺　洋之	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
杉浦　徹	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。